

秋間小だより

安中市立秋間小学校

NO18令和5年1月24日

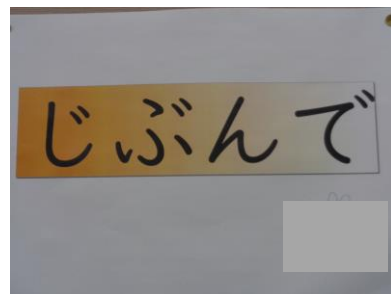
発行責任者：木口 敦子

【学校教育目標】 育てよう！未来に続く「生きる力」～家庭・地域と共に～

今日からこの冬一番の大寒波が到来するということですが、先週は半袖で遊びたくなるような気温の日があったり、日の沈む時刻が少しずつ遅くなっていたりして、季節がまた新しい春へとめぐっていることを日々感じています。

1年間の総まとめとなる3学期の始業式では「じぶんで」をキーワードに、自主的・主体的に活動してほしいことを子供たちに伝えました。

インターネットの普及で世界がとても近くなった今日、グローバル化が進む社会で生き抜くには、「自分で考える」「自分で動く」態度がとても大切だと言われています。秋間小の子供たちには、素直さと柔軟さを保ちつつ、自分の意思と行動する力を身に付けていってほしいです。



書き初め大会

書き初めの歴史は平安時代に宮中で行われていた「吉書の奏」からはじまり、江戸時代には元旦の早朝に初めて汲んだ水で墨をすり、恵方に向けて詩歌や文書を書く行事として、明治時代からは学校の書道教育に取り入れられ、現在に至る新年の行事だそうです。

本当は、事始めの1月2日に新年にふさわしいおめでたい言葉や1年の抱負等を書いて飾り、小正月の1月15日のどんど焼きでほかの正月飾りと一緒に燃やすのだそうですが、学校では始業式後に書き初め大会を行うため、子供たちの書は今教室前の廊下に貼り出されています。

墨の香りのする教室で静かに行われる書き初め大会に、私は毎年心が洗われる思いがします。



不審者対応の教員研修を実施しました

スクールガードリーダーとスクールサポーターを講師に、不審者対応についての職員研修をおこないました。

スクールガードリーダーもスクールサポーターも、元警察官の方です。これまでも、引き渡し訓練や児童の避難訓練、登下校の見守りでお世話になってきましたが、今年は職員研修にもご協力いただきました。

1時間の研修のうち、前半は危機管理の心構えや子供たちと約束しておくべきこと、万が一興奮状態の不審者が訪れた場合の対処の仕方について質問形式で講義を受けました。そして、後半は相手が凶器を持っている場合などの防御の仕方の実技研修でした。

どんな危険な人物が来ても、私たち教職員は子供たちの命を絶対に守らねばなりません。職員の危機管理意識や子供たちを守る技能を高める良い研修でした。



学校経営の重点と取組の様子

シリーズ②学力向上

これからの時代に求められる学力観は知識をたくさんもって正解を即答できることではなく、調べて分かった知識や身に付けた技能を活用（思考し、判断し、表現する）して、大きな課題解決への道筋を自分で切り開き、あきらめずに追究し続ける力、そして、なりたい自分になるために何をどのように学べば良いのかを選び、計画し、実践できる力であると国は示しています。



本校では今年度、子供たち一人一人が自分で自分に合った学びを調整していく力を「自学力」と呼んで、その向上に努めてきました。

自学力を身に付けることは、3年生以下の低学年にはまだまだ難しいと思いますが、4年生以上の高学年では、「**ケテぶれ学習法**」「**予習型算数学習**」などを新しい学習方法として指導し、最近ようやく子供たちの自学力の向上に手応えを感じるようになりました。

例えば、これまで漢字練習というと新しい漢字を1行ずつ漢字ノートに書いて練習という方法が定番でしたが、「**ケテぶれ学習法**」では①学校でのテストまでに覚えるべき漢字は何か自分で計画する ②自分でまずテストしてみる ③答え合わせをし、何が原因で誤答があったのか分析する（自分の間違いやすい癖などを見つける） ④分析結果を受けて改めて有効な練習をする。

また、算数の授業では授業の冒頭でその時間に解決すべき問題が提示され、一人で5分程度考えて解決できた人が発表し、その解決方法を共有するという授業が定番でした。このタイプの授業だと、算数の得意な子は満足して授業が進むけれど、不得意な子はいつも考えている途中で時間切れとなり、モヤモヤ感を残したまま単元が終わってしまいます。しかし、「**予習型算数学習**」では、前の日に解決すべき問題が宿題として提示され、子供たちはその解答について家庭でじっくり時間をかけて自分の考えをまとめてきます。解決できなかったとしてもどこにモヤモヤしているのか自覚して授業に臨むので、どの子も目的意識をもって先生や友達の説明を聞くことができ、最後の「まとめ」にも納得することができます。

このように、子供たちの学力を高めるには、私たち教師が授業観や教師の役割、自主学習や宿題の出し方をアップデートしていく必要があります。

最後にもう一つ、これは子供たちに求めたいことですが、**好きなことについて誰よりも詳しくなろうという意欲と行動力のある子**に育ててほしいのです。これからの社会では「**オールマイティーより一芸**」が必要で、自分が不得意なことは人に任せ、皆が自分の得意なことを持ち寄って社会の目標や課題解決のために協働する、そういう時代に変化しているのだそうです。

学校では、これからも子供たち一人一人がなりたい自分になるための学力向上を応援していきます。

前号訂正のお詫びとお知らせ

個人情報保護のため、記載を控えます。